

そよかぜ診療所 体験記 河本隆吉

12月の一ヶ月間、そよかぜ診療所で地域研修をさせていただきました。朝来市は山々に囲まれた自然豊かな地域で、12月は非常に寒く、研修期間中も冷え込みの厳しい日が多くありました。雪は頻繁ではありませんでしたが、時折降る雪や澄んだ空気、冬ならではの静かな景色がとても印象に残っています。

研修では、主に訪問診療、診療所での採血、頸動脈エコー、心エコーを経験させていただきました。特に訪問診療では、患者さんのご自宅に伺うことで、病院での診療だけでは分からない多くのことを学ぶことができました。生活環境や日常の過ごし方、ご家族との関係などを実際に見ることで、疾患だけでなく患者さんの生活全体を考えながら医療を提供することの大切さを実感しました。また、患者さんがこれまでどのような人生を送ってこられたのかを知ることが、診療を行う上で重要であることも学びました。地域医療ならではの、患者さん一人ひとりに寄り添う医療を肌で感じることができました。

また、頸動脈エコーや心エコーを実際に自分で行わせていただいたことも、非常に貴重な経験でした。将来、耳鼻咽喉科医を目指している私にとって、頸部エコーを一人で担当し、評価まで経験させていただけたことは大変嬉しく、今後につながる自信となりました。外来や病棟業務ではなかなか得られない経験であり、頸部を診る上での解剖や所見の捉え方についても理解を深めることができました。研修医の立場でここまで実践的な経験を積むことができたことに、改めて感謝しています。

診療所では、秀樹先生、静子先生をはじめ、看護師やスタッフの皆様がとても温かく接してくださり、丁寧にご指導いただきました。分からないことも気軽に質問できる雰囲気を作ってくださり、日々安心して研修に臨むことができました。診療所が地域にとって身近で頼れる存在であることを、スタッフの皆様の関わり方から強く感じました。医療技術だけでなく、地域で医療を続けていく姿勢や患者さんとの向き合い方についても多くのことを学ばせていただきました。

研修期間中は車がなく、診療所周辺で過ごすことが多かったですが、雪が落ち着いた頃に改めて車で訪れたいと考えています。

今回の地域研修は、これまで病院の中で学んできた医療とは異なる視点を持つきっかけとなり、医師としての考え方を見直す非常に貴重な一ヶ月となりました。まだまだ未熟な研修医ではありますが、今回学んだ「患者さんの生活に寄り添う医療」を忘れず、今後の初期研修、そして将来の診療に少しずつでも活かしていきたいと考えています。この度は本当にありがとうございました。